

やすらぎ

平成22年4月1日
〔第132号〕

発行 御所モラロジー事務所 発行責任者 吉田 実
〒639-2241 奈良県御所市茅原118-1 TEL/FAX 0745-64-3030 E.mail gose-mc@m5.kcn.ne.jp

念願の谷川記念館と大穴記念館を訪ねて

3月23日から24日、女性クラブの谷川訪問が行なわれました。参加者8名が小雨の中、御所を午前7時40分過ぎ谷川記念館に向けて出発。

定員25人のバスはゆったりと贅沢な旅。持ち寄りの果物、お菓子等を早速頂きながらいつもの通りおしゃべりに花が咲き、楽しい旅の始まりです。降っていた雨も名古屋に近づくほどに上がり、外は少し肌寒いものの、車内は熱気ムンムン…。

長野県松本あたりに入ると遠くの峰々に雪が見られ、群馬県に入ると梅・桃の花が満開に咲き誇り目を楽しませてくれ、バスの旅の醍醐味を味わった。みなかみ町に近づくにつれて、山裾まで雪に覆われた山が車窓から見え隠れするようになり、あれが「谷川岳！」・・・と歓声が沸き起こった。車一台がやっとの細い道をクネクネ走り、やっと広い場所に出た。そこは自然林に囲まれた西洋風の建物、まるで軽井沢のよう。

4時30分過ぎ、「モラロジーを体得して最高道



徳を行ない国家貢献しようとしても、体が弱く寿命が短くはその用を果たす事が出来ない」と湯治と研修を目的として廣池博士が開設して以来73年ももの長期にわたり守られてきた谷川記念館に到着。職員の皆さんに温かく出迎えられ、ま

ずは2階の部屋で施設・温泉の説明を受けた後、谷川記念館で山本館長さんから博士の谷川記念館事跡についての講義を聞きました。

大正元年の大患で人生の大転機を・・・自己反省をして心を立替え、人類の平和と幸福のために捧げる決意をされた話、全国94ヶ所の温泉から効能、湯量、広がり(土地を買う)、交通の便の良さとという4つの条件で谷川温泉を選ばれたこと。

昭和11年10月に工事が始まり昭和12年1月5日谷川講堂が出来たそうで



す。また御神木を中心にすべてが作り上げられたこと、麗澤館の12畳半、7畳半の部屋やふつうなら建設のために伐採される木をそのまま取り込んで建物が建てられたこと、博士の真心が作った浴槽の話、麗澤館が出来たのは両親のお蔭と感謝を忘れない博士の最高道徳の実践・人柄を偲ぶことが出来ました。

夕食後は、明日大穴では余り時間がないので、30分ほどの最晩年の博士の様子を紹介したビデオ(食べないと人心救済が出来ない・春子夫人への感謝の言葉・側近以外には弱った姿を見せなかった強い信念等)を見せて戴きました。

私はこのビデオを見て、昨年末仏様になった我家の父の最期の姿とオーバーラップしました。父も気丈な人で、亡くなる1週間前に歯医者さんへ杖をついて歩いて行き、「動いてる歯を抜いて欲しい。どうにかならないか」と言って歯医者さんを困らせました。内科のお医者さんには「若くなる薬はないか」、お医者さんは「そんな薬があれば、私が欲しい」と笑わせ、最後まで弱った姿を見せませんでした。

私は気丈な姿で、最後まで親の姿の手本を見せてくれたことに感謝しています。

その後、念願の温泉に入らせていただきました。鋸目を入れてすべらないようにした洗い場、湯船の温度調節が出来るための工夫、うがい水を捨てる溝の工夫など博士の心意気が時を越えて伝わってきました。幸せを感じました。

夜は21年度女性クラブ反省会、意見が飛び交い充実。

翌朝7時から山本館長から麗澤館の説明を受け、神木や神壇を見学。バスに乗る前には雪の谷川岳の雄姿を見る事が出来ました。9時大穴記念館に向け出発。

10分ばかりで、大穴記念館長さんの出迎えを受け、博士臨終のお部屋や洞窟のお風呂を見学させていただき博士の慈愛・温かさに触れることができたことに心から感謝。博士の生きざまをお手本にしながら私も精進してまいりたいと心に誓いました。

奈良は遠く、少しでも早く帰れるようにと9時30分谷川を後に日本海まわりで帰路につきました。谷川岳の下、関越トンネルを抜けるとそこは、新潟県湯沢。真冬の冬景色、見わたす限り雪・雪・雪。奈良に住む私達にとっては見る事の出来ない雪国がありました。

湯沢町から南魚沼市、長岡市へ。新潟県を過ぎ、富山、石川を通して、お陰様で午後7時30分過ぎ無事御所に到着しました。

奈良は天気が良くなかったようですが、私達の旅はお天気にも恵まれ、心が洗われた有意義な2日間でした。また凶らずも冬と春の季節を2日で体験することが出来ました。御世話になった皆様に感謝致します。

女性クラブ 杉村

感謝の集い

3月4日の感謝の集いは、いつものように午後8時から事務所で開催されました。参加者は少し少なく、11名。講堂の後方に運営委員会の時のように、テーブルを囲んで座りました。

まず、「誓い」を唱和し、吉田代表世話人が、本日の感謝の集いの持ち方について皆さんの意見を聞くような形で、次回からは、博士の日記や小説などを読むなどしてはの提案あり、運営委員会で審議し決めることになりました。

この日は、モラロジー研究所所報3月号を皆で読むことになりました。まず最初のESSAYのページに書かれている三枝理事の





「正義感を見直す」、続いて所功京都産業大学教授の「天皇陛下はなぜお忙しいか」を1節ずつ順番に読んで行きました。

一旦休憩後、続くブルンジ大学教授

エルメネジルド・ルワンダバグ氏の「廣池千九郎の知恵と現代における挑戦」、井上本部長の「中日本生涯学習センター開設 50 周年を終えて」、そ

の次は中山理麗澤大学学長の「麗澤大学開学 50 周年を終えて」をゆっくりと丁寧に読みました。

このようにして、午後9時30分、この日の感謝の集いを終わりました。

日ごろ、何となく拾い読みしている程度の所報ですが、このように声を出し、丁寧に読むと、そうかそうか、なるほどなと良く理解でき、頭に入ります。初めての試みでしたが、良かったです。時間があれば、お互いに感想を述べ合えば更に良かったと思います。

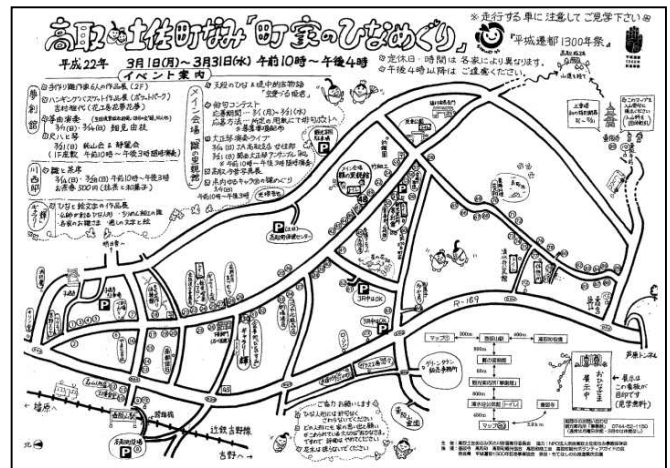
広報委員 米田

町家のひなめぐり

3月、弥生の空は霧雨で温もりのある日、高取の「町家のひなめぐり」に行ってきた。

今年は14回目で90軒の町屋が参加、中には親子三代のおひな様が飾られた家もあり、各家庭のおひな様を見る事ができました。

メイン会場でのこと、高杯(たかつき)には何が乗っているのか不思議に思い、係りの人に尋ねると、「毛虫ですよ」。平安後期の堤中納言物語の「虫愛ずる姫君」に「人々の花、鳥やと愛ずるこそ、はかなくあやしけれ。人は真あり、本地たずねたるこそ心ばえおかしけれ」とある。美しい蝶よりも毛虫を好むお姫様の話をしていただきました。「人は真があって、物の本質を求めたほうがいい」とこのお姫様をヒントに、宮崎駿監督は



「風の谷のナウシカ」を創られたそうです。

私達は会場を後に、坂道を下りると、湯煙が出ている家があり、ガラス越しに恐る々のぞいて見ると、火鉢に古めかしい鉄瓶が掛けられ、九段飾



りのおひな様のかたわらに高齢のおばあさんが座って居られた。中に入り、聞くとそのおばあさんは97歳。元気にいろんな話をして頂き、時間の経つのも忘れて、来年も又来ますと約して別れた。

自然を愛し、しきたりにはまらず自分らしく本質を追い求めたお姫様。祖母から母、そして娘、

孫へと、物の大切さや伝統、いとおしさを感じずにはられませんでした。

私たちも女性として生まれて来てとても幸福です。御先祖様に感謝致します。

山下美知代・米田しげ子

ツアーガイド(4) ならの教会

奈良の祝宴から叔父が戻ってきて、「今日、学校時代にお前といちの友達だったと言っていた人と逢って来た」と告げて帰って行った。荒木直治だな...と思った。

妻の母はクリスチャンであった。郁子は賛美歌しか歌わない母の歌とは、おなじみであった。幼い時、母に連れられて、日曜日には礼拝のため教会へ行った。「母からいつも5円玉をもらってそれを教会へ献金した。教会ではそれでアメ玉を下さった」と言っている。母の久子は、黒滝村寺戸から奈良女子師範学校へ入学して、大伯母、藤井ショウ宅から学校へかよった。その頃には祖母の弟、藤井高蔵は亡くなっていた。

高蔵は吉野郡西吉野村小古田の出身で、奈良で育英女学校を創って校長をしていた。高蔵とショウは奈良キリスト教会で出会って結婚した。母はそのまま奈良育英高等女学校に赴任して、校長藤井ショウの薫陶を受けた。秘書も寄宿舎の舎監をも兼ねていたと言っていた。

妻の郁子には、敬けんな母からの受け継ぎはこの40余年その形跡はない。しかし自分の母は、こよなくこの嫁を肉親より愛していたことは誰よりも認めている。

自分は軽信の身で、幾度となくキリスト教と接した。奈良の東向通りは、常に老師池田末則先生と徘徊する道である。彼は歴史知名学の大家でいらっしやる。この道の中程迄来ると、クリスチャンのキンダ・ガルテンが左上に木造古色な姿で今もある。この隠されて見えない奥のどこかに礼拝

堂があった。遠い昔、戦死で父を亡くした16歳の二人の青年が、神にめぐみをと賛美歌を唄った。その一人が荒木直治である。

当時アメリカ軍が教会を接收していた。彼は元気良く生徒会長をつとめて、社会のどこかへと去っていった。

弟の誘いで、長柄の米田純三牧師につとつとよっていた。身体障害者で、ヘレンケラーにだき上げられたことで有名となった。晩年でもテープレコーダーで英会話を勉強しておられた。

孫が保育所へお世話になった。勝牧師からお誘いがあって、教会の記念チャペルにかよった。彼は母校の神学部を卒業した後輩であった。或る日突然と亡くなり、大変きびしい雪降る追悼会で別離した。

God Be with you

神ともにいまして ゆく道をまもり

天(あめ)の御糧(みかて)もて

ちからをあたえませ

また会う日まで また会う日まで

神のまもり 汝(な)が身を離れざれ

トーマス



運営委員会報告

平成22年3月23日午後8時より開催、出席者12名。

【報告事項】

1. 4月4日地方責任者研修会、10日参与会、11日次代リーダー研修会、17日ビジネススクリーナー研修会、5月29日受講担当者打合せ、30日セミナー打合せあり各担当研修会にはご参加ください。
2. 4月18日県青年クラブ事務所持ち回り企画・体力測定を開催します。

【審議事項】

1. 平成22年度事務所役割については一部変更依頼あ

り、その他は現行通り1年間行う。

2. 平成22年度総会開催について、平成22年4月12日19:30~22:00、総会と懇親会、役割、4月7日臨時運営委員会、9日総会資料作成など決定。
3. ゲンキプロジェクト(青年クラブ)予算、事務所より50,000円補助。
4. 家族の絆について、グラウンドゴルフで交流をしてはどうかとの意見あり。